



CHAPTER 5

アラートの使用

- 「アラートについて」 (P.5-1)
- 「Alert Central での作業」 (P.5-5)
- 「アラート プロパティの設定」 (P.5-7)
- 「アラート アクションの設定方法」 (P.5-10)
- 「トレース ダウンロードの有効化」 (P.5-12)
- 「Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止」 (P.5-14)
- 「Log Partition Monitoring の設定」 (P.5-15)
- 「ベスト プラクティス」 (P.5-16)

アラートについて

アクティブになっているサービスが停止したときなど、事前に定義された条件に達したときに管理者に通知するためのアラート メッセージが生成されます。アラートは電子メール/電子ページとして送信できます。

アラートの定義、設定、表示をサポートする RTMT には、事前に設定されたアラートとユーザ定義のアラートが含まれます。両方のタイプの設定作業を実行できますが、事前設定のアラートは削除できません (ユーザ定義のアラートの追加および削除は可能です)。

アラートのオプション

[アラート (Alert)] メニュー ([システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)]) は、次のメニュー オプションで構成されます。

- [Alert Central] : このオプションは、システム内のすべてのアラートの履歴と現在のステータスで構成されます。



(注) システム ドロワの階層ツリーにある [Alert Central] アイコンを選択して [Alert Central] にアクセスすることもできます。

- [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] : このメニュー オプションを使用すると、アラートとアラート プロパティを設定できます。

- [アラートの削除 (Remove Alert)] : このメニュー カテゴリを使用すると、アラートを削除できます。
- [アラートの有効化 (Enable Alert)] : このメニュー カテゴリで、アラートを有効にできます。
- [アラートの無効化 (Disable Alert)] : このカテゴリでアラートを無効にできます。
- [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend cluster/Node Alerts)] : このメニュー カテゴリを使用すると、特定の Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ全体のアラートを一時的に停止できます。
- [アラートのクリア (Clear Alerts)] : このメニュー カテゴリを使用すると、アラートをリセットして (アラート項目の色が赤から黒に変わります)、アラートが処理済みであると示すことができます。アラートが発生すると、RTMT でアラートの色が自動的に変わり、アラートを手動でクリアするまでそのままになります。
- [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)] : このメニュー カテゴリを使用すると、すべてのアラートをクリアできます。
- [すべてのアラートをデフォルト設定にリセット (Reset all Alerts to Default Config)] : このメニュー カテゴリを使用すると、すべてのアラートをデフォルト設定にリセットできます。
- [アラートの詳細 (Alert Detail)] : このメニュー カテゴリはアラート イベントに関する詳細情報を表示します。
- [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] : このカテゴリでは、電子メール サーバを設定してアラートを有効にできます。
- [アラート アクションの設定 (Config Alert Action)] : このカテゴリを使用すると、特定のアラートに対するアクションの設定、および目的の電子メール受信者にアラートを送信するアクションの設定ができます。

RTMT では、`perfmon` カウンタのしきい値に対するアラート通知を設定し、そのアラートのアラートプロパティ (しきい値、期間、頻度など) を設定します。

[Alert Central] は、クイック起動の [ツール (Tools)] 階層ツリーの配下にあります。[Alert Central] には、システム内のすべてのアラートの現在のステータスと履歴が表示されます。

- 「事前設定のアラート」 (P.5-2)
- 「アラートのフィールド」 (P.5-3)
- 「アラート ログ」 (P.5-5)

事前設定のアラート

[Alert Central] で事前設定のアラートとカスタム アラートを有効または無効にできます。ただし、事前設定のアラートは削除できません。

次に、システムに事前設定されているアラートを示します。

- AuthenticationFailed
- CiscoDRFFailure
- CoreDumpFileFound
- CpuPegging
- CriticalServiceDown



(注) CriticalServiceDown アラートは、サービスのステータスがダウンのときにのみ生成されます (その他の状態では生成されません)。

- HardwareFailure
- LogFileSearchStringFound
- LogPartitionHighWaterMarkExceeded
- LogPartitionLowWaterMarkExceeded
- LowActivePartitionAvailableDiskSpace
- LowAvailableVirtualMemory
- LowInactivePartitionAvailableDiskSpace
- LowSwapPartitionAvailableDiskSpace
- ServerDown



(注) ServerDown アラートは、現在「アクティブ」な AMC (プライマリ AMC、または、プライマリが使用不可の場合はバックアップ AMC) がクラスタ内の別のノードに到達できない場合に生成されます。このアラートは、サーバダウン状態以外に、ネットワーク接続の問題も示します。

- SparePartitionLowWaterMarkExceeded
- SparePartitionHighWaterMarkExceeded
- SyslogSeverityMatchFound
- SyslogStringMatchFound
- SystemVersionMismatched
- TotalProcessesAndThreadExceededThreshold

アラートのフィールド

RTMT で、事前に設定されたアラートとユーザ定義のアラートを設定できます。また、事前設定のアラートとユーザ定義のアラートの両方を無効にすることもできます。パフォーマンス モニタリング ウィンドウではユーザ定義のアラートを追加および削除できます。ただし、事前設定のアラートは削除できません。

表 5-1 に、各アラートの設定に使用できるフィールドのリストを示します。特に記載がない限り、ユーザは事前に設定されたフィールドを設定できます。

表 5-1 アラートのカスタマイズ

フィールド	説明	コメント
アラート名 (Alert Name)	RTMT がアラートに関連付けるモニタリング項目の概略的な名前	説明的な名前。事前設定のアラートの場合、このフィールドは変更できません。事前設定のアラートのリストについては、「事前設定のアラート」(P.5-2)を参照してください。
説明 (Description)	アラートの説明	事前設定のアラートの場合、このフィールドは編集できません。事前設定のアラートのリストについては、「事前設定のアラート」(P.5-2)を参照してください。
パフォーマンス カウンタ (Performance Counter(s))	パフォーマンス カウンタのソース	このフィールドは変更できません。
しきい値 (Threshold)	アラートの生成条件 (値)	上限 <-> 下限 (#、%、レートより小さい、#、%、レートより大きい) を指定します。
次の値で算出 (Value Calculated As)	しきい値条件を確認する方法	評価する値を絶対値、差分 (現在と前回)、または差分比率で指定します。
期間 (Duration)	アラートの生成条件 (アラートを生成するまでのしきい値の持続時間)	すぐにアラートを送信させるオプション、またはアラートが指定時間持続した後に送信させるオプションがあります。
アラート アクション ID (Alert Action ID)	実行するアラート アクションの ID (アラート アクションに関係なく、システムは常にアラートを記録します)。	アラート アクションは最初に定義されます。このフィールドが空白の場合は、電子メールが無効になっていることを示します。
アラートの有効化 (Enable Alerts)	アラートを有効または無効にします。	オプションは、有効化または無効化です。
アラートのクリア (Clear Alert)	アラートをリセットして (アラート項目の色が赤から黒に変わります)、アラートが解決されたことを示します。	アラートが発生すると、アラートの色が自動的に赤に変わり、アラートを手動でクリアするまでそのままになります。すべてのアラートをクリアするには、[すべてをクリア (Clear All)] を使用します。
アラート生成率 (Alert Generation Rate)	アラート条件が持続したときにアラートを生成する頻度	X 分ごとに指定します。(条件が持続した場合には、X 分ごとに 1 回アラートが生成されます)。 X 分ごとに最大 Y 回と指定します。(条件が持続した場合には、X 分ごとに Y 回アラートが生成されます)。
テキスト入力ユーザ (User Provide Text)	定義済みのアラート テキストにテキストを付加する管理者	該当なし
重大度 (Severity)	表示用 (たとえば、重大度 1 のアラートだけを表示する)	定義済みのアラート (Error、Warning、Information など) に割り当てられるデフォルトを指定します。

アラート ログ

アラートは、アラート ログに保存されます。また、メモリにも保存されます。メモリは一定間隔でクリアされ、最後の 30 分間のデータがメモリに残されます。サービスが開始または再開されると、クラスタ内のすべてのサーバに存在するアラート ログから最後の 30 分間のアラート データが読み込まれ、メモリにロードされます。メモリ内のアラート データは、要求に応じて RTMT クライアントに送信されます。

RTMT の起動時に、RTMT は最後の 30 分間に発生したすべてのログを Alert Central ログ履歴に表示します。アラート ログは定期的に更新され、新しいログがログ履歴ウィンドウに挿入されます。ログ件数が 100 に達すると、RTMT は最も古い 40 件のログを削除します。

アラート ログのファイル名の形式は、AlertLog_MM_DD_YYYY_hh_mm.csv です。

アラート ログには次の属性が含まれます。

- Time Stamp : RTMT がデータを記録した時刻
- Alert Name : 説明的なアラート名
- Node : RTMT がアラートを生成した場所のノード名
- Alert Message : アラートに関する詳細説明
- Description : モニタされるオブジェクトの説明
- Severity : アラートの重大度
- PollValue : アラート条件が発生したモニタ対象オブジェクトの値
- Action : 実行されたアラート アクション
- Group ID : アラートの生成元を特定

各ログ ファイルの最初の行はヘッダーです。各アラートの詳細は 1 行に書き込まれ、カンマで区切られています。

Alert Central での作業

[Alert Central] にアクセスし、次の作業を実行できます。

- アラート情報のソート
- アラートの有効化、無効化、または削除
- アラートのクリア
- アラートの詳細の表示

はじめる前に

アラートに関する情報を確認してください。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- a. クイック起動チャンネルで次の手順を実行します。
 - [システム (System)] を選択します。
 - ツリー階層で、[ツール (Tools)] をダブルクリックします。
 - [Alert Central] アイコンを選択します。
- b. [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [Alert Central] を選択します。

ステップ 2 次の 1 つまたは複数の操作を実行します。

目的	アクション
アラート プロパティを設定する	「アラート プロパティの設定」(P.5-7) を参照してください。
Cisco Unified Presence ノードのアラートを一時停止する	「Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止」(P.5-14) を参照してください。
アラート通知用電子メールを設定する	「アラート通知用電子メールの設定」(P.5-12) を参照してください。
アラート アクションを設定する	「アラート アクションの設定」(P.5-10) を参照してください。
[アラート ステータス (Alert Status)] ペイン内のアラート情報をソートする	a. 列見出しに表示される上/下矢印を選択します。たとえば、[有効 (Enabled)] または [InSafeRange] 列に表示される上/下矢印を選択します。
アラート履歴情報をソートする	a. [アラート履歴 (Alert History)] ペイン内の列にある上/下矢印を選択します。 b. ペインに表示されていないアラート履歴を表示するには、[アラート履歴 (Alert History)] ペインの右側のスクロールバーを使用します。
アラートを有効化、無効化、または削除する	次のいずれかの操作を実行します。 a. [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウで、アラートを右クリックし、目的に応じて [アラートの無効化/有効化 (Disable/Enable Alert)] (オプションが切り替わります) または [アラートの削除 (Remove Alert)] を選択します。 b. [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートの有効化/無効化 (または削除) (Disable/Enable (または Remove) Alert)] を選択します。

目的	アクション
アラートの解決後にアラートを個別または一括でクリアする	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <p>a. [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックして [アラートのクリア (Clear Alerts)] (または [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)]) を選択します。</p> <p>b. [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートのクリア (Clear Alerts)] (または [すべてのアラートをクリア (Clear All Alerts)]) を選択します。</p>
アラートの詳細を表示する	<p>a. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウの表示後、アラートを右クリックして [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。 - [アラート ステータス (Alert Status)] ウィンドウでアラートを強調表示し、[システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラートの詳細 (Alert Details)] を選択します。 <p>b. アラートの詳細の表示が完了したら、[OK] を選択します。</p>

トラブルシューティングのヒント

RTMT で削除できるのは、ユーザ定義のアラートだけです。事前設定のアラートを選択すると、[アラートの削除 (Remove Alert)] オプションはグレー表示されます。

関連項目

[「アラートについて」\(P.5-1\)](#)

アラート プロパティの設定

アプリケーションは、アラート通知機能を使用してシステムの問題を通知します。システム パフォーマンス カウンタのアラート通知をアクティブにするには、次の設定が必要です。

[RTMT Perfmon モニタリング (RTMT Perfmon Monitoring)] ペインで、システムの perfmon カウンタを選択します。

- アラート通知の電子メールまたはメッセージ ポップアップ ウィンドウを設定します。
- アラートのしきい値を決定します。
- アラート通知の頻度を決定します (アラートが 1 回または毎時に発生するなど)。
- アラートがアクティブになるスケジュールを決定します (毎日、または 1 日の特定の時刻など)。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

目的	アクション
パフォーマンス カウンタのアラート プロパティを設定する	<p>a. パフォーマンス カウンタを表示します。</p> <p>b. カウンタの図または表で、アラート通知を設定するカウンタを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。</p> <p>c. [アラートの有効化 (Enable Alert)] をオンにします。</p>
[Alert Central] からアラート プロパティを設定する	<p>a. [Alert Central] にアクセスします。</p> <p>b. アラート プロパティを設定するアラートを選択します。</p> <p>c. 次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。 • [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> – [アラートの有効化 (Enable Alert)] をオンにします。

ステップ 2 [重大度 (Severity)] リスト ボックスで、通知を受ける重大度レベルを選択します。

ステップ 3 [説明 (Description)] ペインでアラートの説明を入力します。

ステップ 4 [次へ (Next)] を選択します。

ステップ 5 [しきい値 (Threshold)]、[次の値で算出 (Value Calculated As)]、[期間 (Duration)]、[頻度 (Frequency)]、および [スケジュール (Schedule)] の各ペインで設定を行います。

表 5-2 カウンタのアラート設定パラメータ

設定	説明
[しきい値 (Threshold)] ペイン	
次の条件に達したときにアラートをトリガー (Trigger alert when following conditions met) (超 (Over)、未満 (Under))	<p>オンにして適用する値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [超 (Over)]: オンにして、アラート通知がアクティブになる前に達する必要がある最大しきい値を設定します。[以上 (Over)] の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 • [未満 (Under)]: オンにして、アラート通知がアクティブになる前に達する必要がある最小しきい値を設定します。[以下 (Under)] の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 <p>ヒント これらのチェックボックスは、[頻度 (Frequency)] および [スケジュール (Schedule)] の設定パラメータと組み合わせて使用します。</p>

設定	説明
[次の値で算出 (Value Calculated As)] ペイン	
[絶対値 (Absolute)]、[差分 (Delta)]、[差分比率 (Delta Percentage)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [絶対値 (Absolute)]: 一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在のステータスを表示する場合に選択します。 [差分 (Delta)]: 現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分を表示する場合に選択します。 [差分比率 (Delta Percentage)]: カウンタ パフォーマンスの変化を比率で表示する場合に選択します。
[期限 (Duration)] ペイン	
[値が常に次の場合にアラートをトリガー (Trigger alert only when value constantly...)]、[アラートをすぐにトリガー (Trigger alert immediately)]	<ul style="list-style-type: none"> [値が常に次の場合にアラートをトリガー (Trigger alert only when value constantly...)]: 指定した秒数にわたって値が常にしきい値の下限または上限を超えた場合に限りアラート通知を送信する場合は、このオプション ボタンを選択して、アラートを送信するまでの秒数を入力します。 [アラートをすぐにトリガー (Trigger alert immediately)]: アラート通知をすぐに送信する場合は、このオプション ボタンを選択します。
[頻度 (Frequency)] ペイン	
[各ポーリングでアラートをトリガー (Trigger alert on every poll)]、[トリガーの間隔 (trigger up to...)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [各ポーリングでアラートをトリガー (Trigger alert on every poll)]: 各ポーリングでしきい値条件に達したときにアラート通知をアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択します。 [トリガーの間隔 (trigger up to...)]: アラート通知を一定間隔でアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択して、送信するアラートの数とアラートを送信する時間 (分) を入力します。
[スケジュール (Schedule)] ペイン	
[24 時間毎日 (24-hours daily)]、[開始/停止 (Start/Stop)]	<p>適用するオプション ボタンを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> [24 時間毎日 (24-hours daily)]: アラートを 1 日 24 時間トリガーする場合は、このオプション ボタンを選択します。 [開始/停止 (Start/Stop)]: アラート通知を特定のタイムフレームでアクティブにする場合は、このオプション ボタンを選択して、開始時刻と停止時刻を入力します。オンにした場合は、日次タスクの開始時刻と停止時刻を入力します。たとえば、カウンタを毎日午前 9 時から午後 5 時まで、または午後 9 時から午前 9 時までチェックするように設定することができます。

トラブルシューティングのヒント

Cisco Unified Presence クラスタ全体のアラートの場合は、[アラート プロパティ (Alert Properties)] ウィンドウに [次のサーバでこのアラートを有効化/無効化 (Enable/Disable this alert on following server(s))] が表示されません。クラスタ全体のアラートには、登録済みの電話機の数、ゲートウェイの数、メディア デバイスの数、使用されているルート リスト、使用されているメディア リスト、アウト オブ サービスの MGCP D チャンネル、悪意のあるコールのトレース、および限度を超えている品質レポートが含まれます。

次の作業

[「アラートアクションの設定」 \(P.5-10\)](#)

関連項目

- [「パフォーマンス カウンタの表示」 \(P.4-2\)](#)
- [「Alert Central での作業」 \(P.5-5\)](#)

アラートアクションの設定方法

RTMT では、生成されるアラートごとにアラートアクションを設定して、アラートアクションリストで指定した電子メール受信者にアラートアクションを送信できます。

表 5-3 に、アラートアクションの設定に使用するフィールドのリストを示します。特に記載がない限り、ユーザはすべてのフィールドを設定できます。

表 5-3 アラートアクションの設定

フィールド	説明	コメント
アラートアクション ID (Alert Action ID)	実行するアラートアクションの ID	説明的な名前を指定します。
メール受信者 (Mail Recipients)	電子メール アドレスのリスト。リスト内の個別の電子メールを選択的に有効または無効にできます。	該当なし

- [「アラートアクションの設定」 \(P.5-10\)](#)
- [「アラート通知用電子メールの設定」 \(P.5-12\)](#)

アラートアクションの設定

はじめる前に

アラート プロパティを設定します。

手順

ステップ 1 [アラートプロパティ: 電子メール通知 (Alert Properties: Email Notification)] ウィンドウで、次の1つまたは複数の操作を実行します。

目的	アクション
このアラートでアラートアクションをトリガーする	リストボックスから、送信するアラートアクションを選択します。
新しいアラートアクションを追加する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 [アラートアクション (Alert Action)] ウィンドウで [追加 (Add)] を選択します。 [名前 (Name)] フィールドにアラートアクションの名前を入力します。 [説明 (Description)] フィールドにアラートアクションの説明を入力します。
既存のアラートアクションを編集する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 アラートアクションを強調表示します。 [編集 (Edit)] を選択します。 設定を更新します。 [OK] を選択します。
アラートアクションを削除する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 アラートアクションを強調表示します。 [削除 (Delete)] を選択します。
アラートアクションを受信する電子メール受信者を追加する	<ol style="list-style-type: none"> [設定 (Configure)] を選択します。 [アラートアクション (Alert Action)] ウィンドウで [追加 (Add)] を選択します。 [アクションの設定 (Action Configuration)] ウィンドウの [受信者 (Recipients)] フレームで、もう一度 [追加 (Add)] を選択します。 [電子メール/電子ページアドレスの入力 (Enter email/epage address)] フィールドに、受信者の電子メールまたは電子ページアドレスを入力します。 [OK] を選択します。
指定した電子メール受信者の電子メールを有効にする	[電子メールの有効化 (Enable Email)] をオンにします。
電子メール受信者を無効にする、または削除する	<p>次のいずれかの操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 受信者を強調表示し、[有効 (Enable)] をオフにします。 - 受信者を強調表示し、[削除 (Delete)] を選択します。

ステップ 2 [ユーザ定義の電子メールテキスト (User-defined email text)] ボックスに、電子メールメッセージに表示するテキストを入力します。

ステップ 3 アラート アクションの設定が終了したら、[保存 (Save)] を選択します。

次の作業

「トレース ダウンロードの有効化」(P.5-12)

関連項目

- 「アラート プロパティの設定」(P.5-7)
- 「アラート通知用電子メールの設定」(P.5-12)

アラート通知用電子メールの設定

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] を選択します。
- ステップ 2** [メール サーバ (Mail Server)] フィールドに、メール サーバを入力します。
- ステップ 3** [ポート (Port)] フィールドに、メール サーバのポート番号を入力します。デフォルトポートは 25 です。
- ステップ 4** アラート プロパティに移動します（「アラート プロパティの設定」(P.5-7) のステップ 1 を参照）。
- ステップ 5** [アラート プロパティ：電子メール通知 (Alert Properties: Email Notification)] ダイアログボックスで [設定 (Configure)] を選択します。
- ステップ 6** [アラート アクション (Alert Action)] ダイアログボックスで [追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 7** [アクションの設定 (Action Configuration)] ダイアログボックスの [受信者 (Recipients)] 領域で [追加 (Add)] を選択します。
- ステップ 8** [電子メール/電子ページアドレスの入力 (Enter email/epage address)] フィールドに、受信者の電子メールまたは電子ページアドレスを入力します。
- ステップ 9** [OK] を選択します。
- ステップ 10** [アクションの設定 (Action Configuration)] ダイアログボックスで [OK] を選択します。
- ステップ 11** [アラート アクション (Alert Action)] ダイアログボックスで [閉じる (Close)] を選択します。
- ステップ 12** [ユーザ定義の電子メール テキスト (User-defined email text)] ボックスに、電子メール メッセージに表示するテキストを入力します。
- ステップ 13** [保存 (Save)] を選択します。

トレース ダウンロードの有効化

事前に設定されたアラートの中には、イベントが発生するとトレース ダウンロードを開始できるアラートがあります。次のアラートで [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] の [TCT ダウンロードの有効化 (Enable TCT Download)] チェックボックスをオンにすると、特定のイベントが発生したときに、トレースを自動的に取り込みます。

- CriticalServiceDown

- CoreDumpFileFound

**注意**

トレース ダウンロードを有効にすると、サーバのサービスに影響を与える場合があります。多数のダウンロードを設定すると、サーバの QoS に悪影響が生じます。

はじめる前に

アラート アクションを設定します。

手順

-
- ステップ 1** 次のいずれかの手順を実行して、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] オプションにアクセスします。
- アラームを選択し、そのアラームを右クリックします。
 - [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。
- ステップ 2** [アラート プロパティ: トレース ダウンロード (Alert Properties: Trace Download)] ウィンドウが表示されるまで [次へ (Next)] を選択します。
- ステップ 3** [トレース ダウンロードの有効化 (Enable Trace Download)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** 次の操作を実行します。
- a. プロトコル、ホスト IP アドレス、ユーザ名、パスワード、ポート、およびトレースを保存するためのダウンロード ディレクトリ パスを入力します。
 - b. [テスト接続 (Test Connection)] を選択して SFTP サーバとの接続性を確認します。接続テストに失敗した場合、設定は保存されません。
 - c. [OK] を選択します。
 - d. [TCT ダウンロードのパラメータ (TCT Download Parameters)] ウィンドウに、ダウンロードの回数と頻度を入力します。ダウンロードの回数と頻度を設定すると、ダウンロードされるトレース ファイルの数を制限するのに役立ちます。ポーリングの設定が、頻度のデフォルト設定の基準となります。
 - e. [次へ (Next)] を続けて選択し、[保存 (Save)] を選択します。
-

トラブルシューティングのヒント

TCT ダウンロードを有効にすると、サーバのサービスに影響を与える場合があります。多数のダウンロードを設定すると、サーバの QoS に悪影響が生じます。

関連項目

- 「アラート アクションの設定」(P.5-10)

Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタのアラートの一時停止

特定の Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ全体で、一部またはすべてのアラートを一時的に停止する必要が生じる場合があります。たとえば、Cisco Unified Presence を新しいリリースにアップグレードする場合、アップグレード中に電子メールや電子ページを受信しないように、アップグレードが完了するまですべてのアラートを一時停止する必要があると考えられます。

手順

- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend Cluster/Node Alerts)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの操作を実行します。

目的	アクション
クラスタ内のすべてのアラートを一時停止する	<ul style="list-style-type: none"> a. [クラスタ全体 (Cluster Wide)] を選択します。 b. [すべてのアラートを一時停止 (Suspend all alerts)] をオンにします。 c. [OK] を選択します。
サーバごとにアラートを一時停止する	<ul style="list-style-type: none"> a. [サーバごと (Per Server)] を選択します。 b. アラートを一時停止する各サーバの [一時停止 (Suspend)] をオンにします。 c. [OK] を選択します。
アラートを再開する	<ul style="list-style-type: none"> a. [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [クラスタ/ノードのアラートの一時停止 (Suspend Cluster/Node Alerts)] を選択します。 b. アラートを再開する各サーバの [一時停止 (Suspend)] をオフにします。 c. [OK] を選択します。

トラブルシューティングのヒント

サーバごとの一時停止の状態は、Cisco Unified Presence クラスタ全体のアラートには適用されません。

Log Partition Monitoring の設定

Log Partition Monitoring は、システムとともに自動的にインストールされ、設定可能なしきい値を使用して、サーバ上のログパーティションのディスク使用率をモニタします。Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスは、Cisco Unified Presence のインストール後に自動的に開始されます。

Log Partition Monitoring は、次の設定済みのしきい値を使用して、サーバ上のログパーティションのディスク使用率を 5 分ごとにモニタします。

- **LogPartitionLowWaterMarkExceeded** (ディスク領域使用率) : ディスク使用率が指定のパーセンテージを超えると、LPM は **syslog** にアラームメッセージを送信し、RTMT Alert Central にアラートを送信します。ログファイルを保存してディスク領域を回復するには、RTMT の [Trace & Log Central] オプションを使用します。
- **LogPartitionHighWaterMarkExceeded** (ディスク領域使用率) : ディスク使用率が指定のパーセンテージを超えると、LPM は **syslog** にアラームメッセージを送信し、RTMT Alert Central にアラートを送信します。

さらに、Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスは 5 秒ごとにサーバをチェックして、新たに作成されたコア ダンプ ファイルの有無をチェックします。新しいコア ダンプ ファイルが存在した場合、Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスは、新しい各コア ファイルに関する情報とともに **CoreDumpFileFound** アラームとアラートを Alert Central に送信します。

Log Partition Monitoring サービスは、システム起動時に開始されたときに、現在のディスク領域の使用率をチェックします。ディスク使用率のパーセンテージが下限を上回っていても、上限を下回っている場合には、**syslog** にアラームメッセージが送信され、RTMT Alert Central で対応するアラートが生成されます。

Log Partitioning Monitoring を設定するには、Alert Central で **LogPartitionLowWaterMarkExceeded** アラートと **LogPartitionHighWaterMarkExceeded** アラートのアラートプロパティを設定します。

サーバからトレースまたはログ ファイルをダウンロードするときに、ユーザはダウンロード後にファイルをサーバから削除することもできます。ログ ファイルをオフロードし、**Real-Time Monitoring Tool** を使用して目的のトレースを収集し、これらのトレースを保存することにより、サーバ上のディスク領域を回復できます。

ディスク使用率のパーセンテージが設定した上限を上回っている場合は、**syslog** にアラームメッセージが送信され、RTMT Alert Central で対応するアラートが生成され、値が下限に達するまでログ ファイルが自動的にページされます。



(注)

Log Partition Monitoring は、アクティブなディレクトリと非アクティブなディレクトリを含む共通のパーティションを自動的に識別します。アクティブなディレクトリには、現行バージョンの Cisco Unified Presence のログ ファイルが含まれており、非アクティブなディレクトリには、以前にインストールされたバージョンの Cisco Unified Presence のログ ファイルが含まれています。必要に応じて、サービスは非アクティブなディレクトリのログ ファイルを先に削除します。次に、すべてのアプリケーションの最も古いログ ファイルから順に、ディスク領域のパーセンテージが設定された下限を下回るまで、アクティブなディレクトリのログ ファイルを削除します。Log Partition Monitoring によってログ ファイルがページされても、システムは電子メールを送信しません。

システムがディスク使用率を判断し、必要なタスク (アラームの送信、アラートの生成、またはログのページ) を実行した後は、ログパーティションモニタリングが通常の 5 分間隔で行われます。

はじめる前に

ログパーティションモニタを利用するには、ネットワークサービスである Cisco Log Partitioning Monitoring Tool サービスが Cisco Unified Serviceability 上のサーバで稼働していることを確認します。サービスを停止すると、機能が失われます。

手順

-
- ステップ 1** [ツール (Tools)] > [Control Center] > [ネットワーク サービス (Network Services)] を選択します。
 - ステップ 2** [サーバ (Servers)] リスト ボックスから、ディスク使用率をモニタする対象のサーバを選択します。
 - ステップ 3** [実行 (Go)] を選択します。
 - ステップ 4** [パフォーマンスおよびモニタリング サービス (Performance and Monitoring Services)] で、Cisco Log Partition Monitoring Tool (LPM) のステータスを確認します。
 - ステップ 5** LPM が稼動していない場合は、[Cisco LPM] の横にあるオプションボタンを選択します。
 - ステップ 6** [開始 (Start)] を選択します。
-

関連項目

「アラート プロパティの設定」(P.5-7)

ベスト プラクティス

これらの推奨事項は、アラートを設定する際に役立ちます。

- 「コア ダンプに関するアラートの設定と関連ログの収集」(P.5-16)

コア ダンプに関するアラートの設定と関連ログの収集

コア ダンプは再現が難しい場合があるため、コア ダンプが発生してから上書きされる前に、関連するログ ファイルを収集することが特に重要です。したがって、コア ダンプの発生時にはすぐに通知を受け取ってトラブルシューティングを支援できるように、コア ダンプに関する電子メール アラートを設定することを検討しておく必要があります。

Real-Time Monitoring Tool での電子メール アラートの有効化

手順

-
- ステップ 1** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [Alert Central] を選択します。
 - ステップ 2** [CoreDumpFileFound] アラートを右クリックし、[アラート/プロパティの設定 (Set Alert/Properties)] を選択します。
 - ステップ 3** [電子メールの有効化 (Enable Email)] をオンにするなど、ウィザードに従って必要な基準を設定します。
 - ステップ 4** [システム (System)] > [ツール (Tools)] > [アラート (Alert)] > [電子メール サーバの設定 (Config Email Server)] を選択します。
 - ステップ 5** 電子メール サーバの設定を入力します。
-

ログの収集

電子メール アラートを受信した際には、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** アラートを発信したサービスを確認します。電子メール メッセージ内では「Core」で示されます。
- ステップ 2** [ツール (Tools)] > [Trace & Log Central] > [ファイルの収集 (Collect Files)] を選択し、影響を受けるすべてのサービスに関連するログを選択します。
- たとえば、サービスが Cisco UP Presence Engine の場合は、Cisco UP Presence Engine、Cisco XCP Router および Cisco UP XCP Connection Manager のログを収集します。または、サービスが Cisco UP XCP Router の場合は、Cisco UP XCP Router と、Cisco UP XCP Connection Manager および Cisco UP Presence Engine のログを収集します。
- ステップ 3** CLI から次のコマンドを実行して、スタック トレースを生成します。
- ```
utils core active list
utils core active analyze core file name
```
- ステップ 4** [ツール (Tools)] > [Trace & Log Central] > [ファイルの収集 (Collect Files)] を選択し、[RIS Data Collector PerfMon ログ (RIS Data Collector PerfMon Log)] を選択します。
- ステップ 5** [ツール (Tools)] > [Syslog ビューア (SysLog Viewer)] を選択してシステム ログを収集します。
- ノードを選択します。
  - [システム ログ (System Logs)] > [メッセージ (messages)] をクリックしてメッセージを表示し、保存します。
  - [アプリケーション ログ (Application Logs)] > [CiscoSyslog] をクリックしてログ ファイルを表示し、保存します。
- ステップ 6** 収集したファイルをシスコのテクニカル サポート ケースに添付します。
-

